

1. 自己評価

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970800286		
法人名	社会福祉法人 仁南会		
事業所名	つぶら・すじやく		
所在地	奈良県御所市柏原721-1		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2970800286-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和5年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ぬくもりのある創造的なホームづくりを法人理念とし、利用者一人ひとりがその人らしく生活できるよう、利用者の気持ちに寄り添いながら根拠あるケアをチームで実践するために、利用者との関わりを大切に考え、職員個々の気付きを共有している。行動の一つひとつに理由があると考え、利用者個々の想いを傾聴するように心がけ、利用者が混乱しないために職員間での情報共有を重視しケアの統一に努めている。施設の庭にはテーブルと椅子があり、天候が良い時は食事やお茶などゆったりと過ごして頂けるスペースがある。庭や施設内には季節の花や植木があり、季節感を大事にしている。ゆったりのんびりとした家庭的な雰囲気、利用者、職員ともに笑顔あふれるグループホームです。また協力医療機関があり、必要時は診察してもらえる体制が整っている。

事業所は、JR 掖上駅降りてすぐの所にあり、平屋建ての2ユニットのグループホームで、同じ敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービスがある。『ぬくもりのある 創造的なホームづくり』を法人の理念に掲げている。管理者と長年勤務の職員がリーダーシップを取り、より良いサービス提供を目指して取り組んでいる。ホームは明るく広く、廊下にはくつろげる長椅子も置いている。各居室の入り口には生花が生けてあり、定期的な花の宅配も頼んでいて細かい心遣いが伺える。居室も8畳大と広く、和室と洋室がある。地道に品格のあるサービスを提供しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室に「理念」を掲示し、いつでも見えるようにしている。職員全体で理念を共有することで「ぬくもりのある創造的なホームづくり」を職員全員が念頭に置き実践につなげています。	法人理念である『ぬくもりのある 創造的なホームづくり』とともに、『その人らしく、地域の中で、明るく心豊かに過ごしてもらうことを「愛と品性」を持って支援する』というホームの理念を掲げている。長年勤めている職員も多く、管理者と共にリーダーシップを取り、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今までなら地域ボランティアによるクラブの参加や地域の祭りなどを通じて地域との交流に取り組んでいたが今年はコロナの影響もあり関わりが持てていない。	自治会に加入していないが、地区区長より情報は入ってくる。コロナ禍前は、秋祭りでのお神輿がホームの玄関先に入ってきたり、ボランティアによる書道教室や絵手紙教室、保育所や小学校との交流もあった。今後は、状況を見ながら、以前の様な交流に戻し、新たなつきあいも作っていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段から近隣の方やご家族に挨拶や会話など声掛けを心がけ、気軽に相談や話しかけてもらえるような雰囲気大切にしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議の開催を基本とし、そこで出た意見をサービスに活かし取り組むようにしているが、現在も外部の方を交えての会議は開催しておらず、実施出来ておらず、利用者と職員のみで行っている。面会時など家族からの要望があれば対応を心掛けている。	運営推進会議は、コロナ禍前は市高齢対策課職員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、薬剤師、区長、利用者、家族の参加を得て開催していた。コロナ禍で中止していた会議を、先月初めて職員と利用者のみで開催した。議事録の提出も、先月久しぶりに市に提出した。今後は、状況を見ながら、元に戻す予定である。	関係者が集まったの運営推進会議ができなくとも、事業所の情報を関係者に定期的に伝えることにより、意見や要望、情報、知恵を聴取できる可能性もある。また、コロナ禍はリモートで開催していた事業所もあり、何らかの工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の状況を相談しアドバイスを頂いたり、または空き情報の問い合わせや、施設入所を希望している方の相談を受けたりするなど連携体制を築いている。	市地域協働安全課や高齢対策課から空き状況の問い合わせ、相談などがある。市から活動への協力依頼があり、ラン伴を盛り上げるための千羽鶴を折ったことがある。介護保険の更新などの手続きは家族にお願いしているが、できない時はホームで対応している。生活保護受給者もおられ、保護課と連携して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で委員会があり、研修の参加や会議録等で周知をしている。身体拘束について啓発し、なるべく利用者の思いに寄り添うことを大切に考えている。夜間は玄関を施錠するが、日中は開放しており外出など自由である。	現在、身体拘束例はない。以前、ベッドから転落リスクが大きい方がいて、センサーだけでは対応できず、家族から了解を得て2点柵をしたことはある。身体拘束の関連書類は完備している。玄関は施錠しておらず、出て行くことは可能である。現在、法人全体で毎月、身体拘束虐待防止委員会を開催していて、ホームの該当事例を検討する機会がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、委員会や職員会議などで報告や連絡、指導を行い、情報を共有し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加を通じ、制度の理解に努めている。また現在後見人制度を利用されている入所者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明し、質問などあればその都度説明させてもらう時間をしっかりとることで理解、納得していただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンス時や連絡を取った際に利用者や家族からの意見を聞くようにしている。また意見箱を設置している。	面会は現在予約制で、月2回、10分位でお願いしている。来訪時に利用者の状況を報告し、意見を聴いている。介護計画更新前、必ず電話し家族の意向を確認している。できるだけ体を動かして欲しい、家事に参加させてほしい等の意見があった。意見箱があるが、ほとんど入らない。利用者から日常の会話から、食べたい物、風呂の湯加減等の意見をもらうことがある。食物、衣類、化粧品など、欲しい物を聞いて週2回買い出しに行く。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の意見を自由に出し合い話し合えるよう普段から意見や提案を言いやすい雰囲気になるように心掛けている。	職員からの意見は利用者の支援内容のことが多く、現場での話し合いや、連絡や周知のためノートにも記録している。職員の個人面談は定期的に行っていないが、必要時は行っている。管理者は日頃から職員個々の特性や事情を把握し、プライベートも含め話をすることがある。10年以上の勤務者も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に個々に話す機会をもち、職員個々の能力に合った担当や希望に沿った勤務体制又は休暇をとれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップできるよう段階に応じて研修への参加を指示したり、また希望する研修へ参加できることを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで他の事業所との関わりを持ち、お互いの意見を聞いたり検討したりすることでサービスの向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接では十分に時間を取り、本人や家族が困っていることや要望等を聞き、それに沿ったケアプランを作成することで安心した生活が送れるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入所前の面接時に悩みや要望など、じっくりと話せる環境と時間を十分にとり、家族の思いを把握するように努め、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族がどのようなサービスを望んでいるのかを見極め、必要なサービスについて検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体のケアになるように個々の状態に合わせて家事や日常の作業を職員と一緒に行うよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時はもちろん、毎月のお便りなどで、些細なことでも普段の様子を口頭や写真で伝えることで、家族さんとご本人の状態を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため面会に制限はあるが、電話や毎月のお便りなどで連絡出来るようにしている。	家族には毎月、近況も書き添えた写真を入れたお便りを出し、喜んでもらっている。家族が利用者の食べたいものを差し入れたり、手芸が好きな人には道具と材料を用意したりしている。利用者同士の席は話しやすい関係を考慮している。親しい利用者同士、ユニットをまたいで会いに行き話してもらうこともある。友人知人の面会は、コロナ禍で控えているが、電話で話してもらっている。携帯電話を持っている方が3名いる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすい座席に配慮し、レクリエーションや行事への参加など、普段の生活の中の作業を通じて孤独を感じないよう利用者同士の仲間づくりをひろげている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の関係機関への情報提供を行ったり、家族や関係者の相談に応じたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中や家族の情報から本人のニーズを探り出し、一人ひとりの意向を尊重するように取り組んでいる。	入居前にケアマネジャーや家族、利用者からの聞き取りを行い、病歴や日常生活動作能力などの心身状況だけでなく、生活歴や住環境、1日の暮らし方、趣味趣向等を記したアセスメントシートを作成し、その人らしさを把握している。入居後は利用者と家族との会話の中から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネから情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活スタイルとその時の身体機能の状態を把握したうえで、入所後の日々の様子を観察し職員全体で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題分析を行う際には必ずカンファレンスを実施し、直接家族や本人から情報を収集し、現場の職員の意見も聞きながら介護計画を立てている。	介護計画は、入居当初は1ヶ月、その後3ヶ月で見直し、その後は6ヶ月毎に更新している。内容は健康管理に必要なことだけでなく、その人の暮らし方や楽しみも記載されているが、その人らしさが伺えるものになっていないと言えない。	アセスメントシートの更新もされており、生活歴、住環境、1日の暮らし方、趣味趣向等を把握しているが、介護計画には十分反映されていない。職員の暖かな思いも感じられる、生き生きとした内容になることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や各ユニットごとの連絡帳の活用、職員内のミーティングを行ったり、モニタリング結果などを参考に個別ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望があれば身体状況の変化に伴い、その都度可能な範囲で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響もあり、受診以外の外出は困難となる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月定期受診として職員同行で秋津鴻池病院に受診している。また家族、本人が希望すれば入所前からの他の病院へ受診や往診もできるよう支援している。	かかりつけ医は、利用者の希望の病院を選べ往診も受け入れているが、現在、ほとんどの方が秋津鴻池病院を月1回(内科や精神科)、外来受診している。そのほか整形外科、眼科、皮膚科受診している方もいる。看護師の資格が保有する職員もいるが、定期的な看護師の勤務はない。必要時、隣接する老人ホーム勤務の看護師に対応を依頼できる。歯科も必要時の外来受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期、臨時での受診の際に医師に相談している。また状態によって隣接している特養の看護師に相談やアドバイスを受けることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院相談課と随時連絡をとり情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来ることと出来ないことを伝え今後の事を一緒に考えて行けるよう、利用者や家族、関係者と共に支援に取り組んでいる。	看取りはしておらず、入所時に説明している。体調不良や食事量低下が起こると医療機関を受診し、入院となることがほとんどである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、いつでも見られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体とグループホーム内での防災訓練を定期的に行っている。	夜間想定を含め、火災想定避難訓練を、隣接老人ホームと合同で年2回、グループホーム単独で年1回実施している。出火を想定し、消火訓練も行う。緊急連絡網と緊急時手順マニュアルを完備している。備蓄は、3日分の水、バックおかゆ、缶詰、固形食がある。ヘルメット、懐中電灯、ひざ掛け、非常用発電機を用意している。BCPは法人で作成している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを尊重し、自尊心を傷つけないような言葉かけと対応をするように職員に周知し取り組んでいる。月1回の身体拘束委員会からも啓発している。	利用者の呼名は、苗字に「さん」付けをしている。言葉使いは、人格の尊重し、馴れ馴れしくないようにしている。トイレ誘導時、「トイレに行ってくださいよ。」と声掛けすることが、地域柄もあるが利用者も違和感なく受け入れられている。個人の記録ファイルや薬は事務所の鍵付きのロッカーで保管している。	トイレ誘導時の声掛けが、少し直接的になっていると思われる。家族や外部の人が聞くこともあるかと思われるので、何か工夫があればと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望をまず尊重し話を傾聴することで本人の思いを理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いにならないよう利用者の思いを優先した対応を心がけ、タイムスケジュールだけにこだわらず本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時、外出時、入浴後など整容には注意している。希望すれば施設で散髪や毛染め、パーマも対応している。行事や外出時などは自分で好きな服を選んでいただき、季節に合った服装ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど、できる範囲で楽しみながら参加してもらえよう取り組んでいる。また手作りおやつや普段のおやつ作りなどの機会もありユニットの入所者と一緒に召し上がっている。	食事は、基本的に隣接老人ホームの厨房でつくられている。朝食は、おかゆと煮炊き物は夜勤者がつくっている。イベント時や誕生日会など月1・2回、手作りしている。カップケーキを作ったり鯛焼きを焼いたりする。検食は隣接老人ホームで実施している。車いすの利用者は、椅子に座りかえずに食事をしている。欲しい物があれば、週2回位、買い出しに行ってもらえ、チキンラーメンを食べている人がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の一日の水分量を把握し、食事量とともに記録に残している。また利用者の体調や状況に応じて食べやすい形状にしたり、栄養面でわからないことあれば栄養士に相談しながらすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、本人の状態に応じた介助法で口腔ケアを実施している。入れ歯洗浄や洗口液、口腔内の清拭タオルなども使用している。+D91:E108		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう支援を行っている。	14名の利用者の内、オムツの方が2名、リハビリン4名、布パンツ8名である。リハビリンから布パンツとパットに自立度が向上した例もある。排泄の意思表示をジェスチャーでされる人もいて、職員は見逃さず、自立度向上へ取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤も使用するが、朝に冷たい飲み物や間食に乳製品を取り入れたり、腹部マッサージや散歩などの軽い運動などを取り入れることなるべく自然排便につながるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回～週3回行っているが、希望があれば入浴日以外の日でも自由に入浴していただけるよう臨機応変に対応している。	月曜から土曜の午後、風呂の用意をしている。週2・3回は入ってもらおうようにしている。1対1で対応し、ほぼ見守りだけで独りで静かに入られる方もいれば、職員と会話を楽しまれる方もいる。同性介助の希望には対応している。入浴の順番も出来るだけ希望に沿うようにしている。入浴剤を数種類を用意し、使用している。入浴拒否の方は今はいないが、時間をずらしたり、日を変えたりして対応していた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体状態に応じて昼寝の時間をとっている。またリネンの整備や居室環境についても整備し、清潔で落ち着く場所になるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルがあり職員がいつでも見れる状態にし、内容や変化がわかるようにしている。また不明な点があれば提携している薬局に尋ねることもできる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や行事、レクリエーションなどへの参加を促している。個々の趣味や興味のあることなどを聞き出し、趣味や能力をいかしてもらえよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外出は出来ない状態だが通常であれば要望あれば家族の協力も得て外出の機会をとっている。家族が対応できない時はグループホームでの外出時に個人の要望を取り入れるなど柔軟な対応を心掛けている。	コロナ禍での遠出は、病院受診や今春の花見ドライブ程度であった。しかし、玄関先に出て朝の体操をしたり、近隣の散歩は、天気が良ければいつでも可能である。プランターの花に水をやるのが日課の方もいる。玄関先でおやつを楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い費として入所時に預かり金があるため現金を所持しなくても買い物ができる。コロナ感染予防の点から現在は買い物の外出は控えているが、近くのお店に出かけて好きなものを購入したり、また参加はしなくても買い物注文などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があればいつでも職員が電話を取り次いでいる。また手紙や年賀状などもいつでも出せるように支援している。携帯を所持されている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の花や利用者が作った作品を飾ったり季節感を感じられるように工夫している。また毎日の掃除で清潔を心がけ安全で気持ちよい生活空間になるように取り組んでいる。	リビングのテーブルは、高さ調整可能で、天板の縁と胸が近くなる凹み形のものが使われている。廊下は広く、3名でも座れる長椅子が置いてあり、壁には季節感ある飾り付けや利用者の書道、利用者の写真などが飾られている。各居室入口は飾り物が置けるスペースもあり、季節を感じられる生花が生けてある。各ユニットにトイレが4ヶ所あり、1ヶ所には男性用小便器もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスを設置し、利用者同士が自由に会話できるように席の配置にも注意している。利用者同士居室やユニットを行き来されていることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に慣れ親しんだものを持ち込んでもらえるようになっており、居心地のよい空間になるよう家具等の配置についてご家族や本人の意向も取り入れている。	居室は広さ8畳大で、洋室と和室が半々で、入所時、両方空きがある場合は選べる。洗面台、エアコン、クローゼットが備え付けられ、窓には障子がある。ベッドは持ち込みかレンタルで、畳の上で布団で休まれる方もいる。仏壇、こたつ、ラジカセを置いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がわかりやすい声掛けや関わりをもったり、目印をつけたり、動作の際に安全に過ごせるよう環境整備に努めている。		